

14. 生命科学研究科

(分析項目Ⅰ 研究活動の状況 39)

(分析項目Ⅱ 研究成果の状況 39)

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

研究活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 生命研究科の教員の多くが、文部科学省をはじめ各省庁からの大型外部資金を獲得している。（科学研究費補助金・基盤（S）（1）、基盤（A）（4）、新学術領域研究（10）、科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業（5）、日本医療研究開発機構創薬基盤推進研究事業（1）・革新的先端研究開発支援事業（3）・革新的技術による脳機能ネットワークの全容解明プロジェクト（1）・再生医療実現拠点ネットワークプログラム（1）・次世代がん医療創生研究事業（1）、など）

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 高い質にある

〔判断理由〕

学術的に卓越している研究業績、社会・経済・文化的に卓越している研究業績が、それぞれ、8件、3件との評価を受けており、現況分析単位の目的・規模等を勘案し、高い質にあると判断した。

特に、「細胞競合の分子機構」及び「ゼニゴケのゲノム解読と陸上植物の生殖細胞の鍵遺伝子」は、学術的に卓越した業績である。